

自分のフィールド、もっと広げよう!

全国学生ボランティア交流フォーラム IN 神戸



本フォーラムは、阪神・淡路大震災から22年たった神戸の復興過程を学び、東日本や熊本の被災地支援を考えることを目的に開催。学生たちは、神戸・長田の街歩きや、地元の人との対話などを通じて、被災地・神戸で蓄積された知見・経験を学びとりました。最終日の17日に実施されたワークショップでは、「住民自身が主体的に動いていける支援をする」「学生ボランティア団体同士で連携をとって活性化を目指す」などの前向きな意見が発表されました。

ボランティア活動に励み、自らの世界を広げる学生は数多くいます。2月15日～17日に開催された「全国学生ボランティア交流フォーラム IN 神戸」には、東北から九州までの22大学から被災地での活動経験のある学生ら45人が参加し、取り組みについての報告や意見交換を行いました。

甲南大学 マネジメント創造学部2年
三輪 ^{れい な} 麗奈さん 20歳



「身近な人を守る」ことに魅力を感じ、ボランティアの世界に飛び込みました。今回は東北や熊本をはじめ、いろいろな地域の学生たちと共に過ごし、それぞれの体験や考え方に触れることができてよかったです。

熊本県立大学 総管理学部4年
中村 ^{み け} 洸介さん 22歳



今回は阪神・淡路大震災後の具体的な復興事例を学ぶことができました。熊本地震がきっかけでボランティアを始めましたが、以前の自分に比べ、行動を起こすときの「一歩め」が軽くなったと感じています。

甲南大学 学長補佐 地域連携センター所長
佐藤 泰弘 教授

本フォーラムの事務局を務める甲南大学は、過去に複数の自然災害を経験しました。その過程で“協同互助”の精神が自然と育まれてきたといえます。現在でもボランティアを柱とする地域連携に注力し、主体的に活動する学生たちを応援しつづけています。



甲南大学 地域連携センター
神戸市東灘区岡本8-9-1 12号館1階
☎ 078-435-2276
<http://www.konan-u.ac.jp/korec>